

カナン東京日本語学校
2024年度 自己点検・評価

5：達成している／4：ほぼ達成している／3：どちらともいえない／2：取り組みを検討中／1：改善が必要

1. 教育の理念・目標等		評価
1-1	学校の理念・目標や育成する人材像は明確となっているか	5
1-2	学校の理念・目標は全教職員に共有されているか	5
1-3	学校の理念・目標や育成する人材像は社会のニーズに合致しているか	5
1-4	学校の将来構想は策定しているか	5

《現状・具体的な取り組み／課題》

当校の教育理念は以下の通りである。
1. 「世界で活躍できる人材」を育成する
2. 自ら考え、他者と協働ができる人材を育成する
3. 学生の目標とする進学先合格に向けて最大限支援を行う

当校の留学生は100%進学及び就職を希望することから、学生たちが目標に到達できるよう教職員一丸となり上記の3つの教育理念に沿った教育・サービスを行っている。
教職員が一丸となるため、年度末に行われる全教職員参加の会議や入学式等の際に、教育理念の意図や意味について全教職員に伝え、理解を促し行動目標の浸透を図っている。更に、常勤教職員においては、自身の評価の中心となる目標管理シートにおいて、学校理念・教育目標を踏まえた目標設定が各部門で行われており、結果として個人目標も教育理念を念頭に設定している。
学習者に対しては、学習者の母国語に翻訳した学校の手引きへの記載を行い、毎学期のオリエンテーションの際に学生への伝達を行っている。また、パンフレットやHPへの掲載も行い、当校への入学を希望する方々がいつでも見られるようにしている。
教育理念自体が大きな取り組み目標であるため、今年度はMVV（ミッション・ビジョン・バリュー）も定め、各職員がどのように振る舞い、業務を行うとより良いのかを具体的に示す試みを行った。
一方で、変化の激しい現代社会に対応し新たな価値を生み出していくためには、数ある選択肢の中から最適なものを選び取る能力と、他者を認め他者より学ぶ姿勢が必須であるという認識のもと、学習者の日本語能力向上と同時に全方位的な人格形成を支援している。
実際の授業では、「他者と協働ができる」よう教室を常に対話の場として設定し、すべての科目で『対話』と『協働』を取り入れ、日本語による自己表現と他者理解を通して、日本語力向上はもちろん、思考力・対話力・社会的スキルを伸ばしている。

学校の将来構想については、中長期計画を定めており、各メンバーが中長期計画を念頭に置いた上で日々の業務を行っている。また、年に一度開催される全教職員会議の場においてもその進捗度合いと新たな計画や変更点についても明示し共有している。学校として、現状維持を求めるのではなく、常に進化を求めてより良い教育にし、より良い環境を全学生・全教職員に提供するために、教育機関としての体制を強化することを目指している。

2. 学校運営		評価
2-1	日本語教育機関の告示基準は満たしているか	5

2-2	学校の理念や目標に沿った運営方針や事業計画は策定されているか	5
2-3	組織運営や意思決定システムは整備されているか	5
2-4	人事や賃金、財務管理に関する規定は整備されているか	5
2-5	コンプライアンス体制は整備されているか	5
2-6	危機管理体制は整備されているか	5
2-7	IT化等による業務の効率化は行っているか	5

《現状・具体的な取り組み／課題》

告示基準については、設置代表者・校長を中心に全専任教職員に向けて日本語教育機関の告示基準のレクチャーを行い理解醸成に努めるだけでなく、各部部長が業務内において告示基準から逸脱することがないように部署ごとに確認を行っている。

組織については、会議体を整え情報のやり取りに関し抜け漏れがない状態を作っている。加えて、それぞれの部門・チームのリーダーに権限移譲をし、各リーダーが責任を持って各メンバーに指揮を取り、意思疎通を図っている。また、行事においては各部が緊密に連携を取りながら企画・準備・実施を行っており、横のつながり、コミュニケーションの強化に繋がっている。

このような組織の土台を背景に、意思決定においては各部で各職員が自らが積極的に立案、議論し意見形成をした上で責任を持って提案を行い、会議では経営陣による最終確認が行われるのみという形が整えられている。しかしながら、緊急時にはトップダウンでの迅速な意思決定、指示を行うなどして、臨機応変に対応している。

コンプライアンスについては、外部講師を招聘し毎年ハラスメント研修、個人情報、情報セキュリティの研修等を行い、リテラシーの向上に努めている。

危機管理体制について、本校独自の「学校危機管理対応マニュアル」を作成・運用しているが、新型コロナウイルス感染症での経験を踏まえ、当校の対応例をまとめて追記をしている。また、年1回の災害対策動画（地震編・火災編）を用いた避難訓練、年1回の防災体験を実施しており、その後の反省会の内容を元に常にアップデートを行っている。

また、情報共有の面において、災害による休校などの際には、当校使用のSNSを通じていち早く情報発信を行うこととしており、学生・全教職員にもそのフローを周知している。

IT化については、常に業務の効率化を目指し新たなツールなどの導入により推進を続けている。各教室においては、ICT教育の一環として一部に留学生がPCやスマートフォンを使う授業を行っているため、学校内全ての場所において留学生がWi-Fiに接続できる環境を整備している。

課題としては、社員のICTに関する知識や経験に差があるため25年度には外部講師によるICT研修を行い、ICTリテラシーとICTの効果的な使用法を部門毎に作れるよう計画を策定した。

3. 教育活動

評価

3-1	教育理念に沿った教育課程(カリキュラム)は体系的に編成されているか	5
3-2	成績評価や進級、修了の判定基準は明確、且つ適切に運用されているか	5
3-3	教員の指導力(教育の質)向上のための取り組みは行っているか	5
3-4	教育課程(カリキュラム)の改善のための取り組みは行っているか	5

《現状・具体的な取り組み／課題》

当校の教育理念である「世界で活躍できる人材の育成」を目指し、対話を中心とした授業を行っている。初級→超級へと成長できるように、学習期間を通してのカリキュラム表、学期進度予定表、2週間ごとのスケジュール表という各種の授業計画表を準備し、体系的な指導が行えるようにしている。

授業に関しては、日本語力向上と「対話力」「思考力」「社会的スキル」育成に力を注いだカリキュラム編成となっており、十分なインプットを前提としたnarrative作成やディスカッション、プレゼンテーションといった産出活動を中心に据え、大学・大学院・専門学校合格、就職試験突破のみを目標にはしない教育を行っている。尚、JLPT、EJUには日々身につけた学習の成果として臨むものではあるが、試験方策を身につけるという意味での対策授業を直前期を中心に行っている。

評価に関しては、クラスごとの到達度テストと半年に一度の外部試験を使った熟達度テストを行い、学生の到達度と熟達度の両面から学習力向上に対する評価を行っている。

教員の指導力向上に関しては、定期的に行われる講師勉強会や、講師相互の授業見学により、教授法や学生との関わりについて積極的に意見交換をしている。加えて、学期ごとの講師会では、学期末に行う授業アンケートで学生からの声（ニーズ）も取り上げ教師にフィードバックし、指導に反映させている。また、半年に一度の講師研修会のほか、教科書の著者や大学教授などを招いて、当校の教育課程や教え方についての意見交換、勉強会、研修会などを行っている。

教育課程については、学生の成績の伸び、学生アンケート、授業を担当する教師からの意見を基に、定期的カリキュラム・シラバスの見直しを行っている。年度末には、主教材から副教材までの教材の見直しのためのミーティングを行い、よりよい授業を行うためのカリキュラム・教材の改善を行っている。

全ては学生のために！

4. 学修成果	評価
4－1 日本語能力向上のための取り組み、把握は適切に行っているか	5
4－2 各種試験の合格率或いは成績向上のための指導体制は整っているか	5
4－3 進路が決定するまでの指導、把握は適切に行っているか。	5

《現状・具体的な取り組み／課題》

1. 日本語能力向上のための取り組み、把握

毎週末、学生は自らの学習進捗・学習課題を振り返るためにリフレクションを行い教師へ提出、自らの課題発見とその改善に取り組んでいる。教師は提出されたものを利用し学習目標と学習の進捗などについてFBを行っている。また、各学期末には到達度を測るため、会話・作文という産出能力の試験を含む期末試験を実施、四技能から学習者の日本語力を把握できるようになっている。毎週のリフレクションと試験結果をもとに、学期末に担任が1対1のカウンセリングを行い、3か月の振り返りと今後の目標設定を行っている。また、半年に一度、熟達度を測るために外部試験を行い、到達度と熟達度の面から日本語力を把握している。以上のように日々の学習課題の取り組みや毎週のリフレクション、学期末の試験とカウンセリングを通じて自らの日本語力に向き合い、学生が自律的に学習することで日本語力が向上するように取り組んでいる。

2. 成績向上のための指導体制

毎週のリフレクション⇒教師のFB⇒期末試験（左記に加え、半年に一度の外部試験）⇒学習プランシートを使った担任による1対1での学期末カウンセリングを実施(通訳を入れることもある)。

上記の体制以外に、学習面で課題を抱えている学生に対してクラスの教師が学期期間中に個人面談を実施している(通訳を入れることもある)。

また、各種試験に対応できるよう試験直前期を中心に対策授業を実施し、自宅学習のためのツール（問題集、アプリ）を紹介している。

3. 卒業が決定するまでの指導体制、把握

カウンセリングによる希望進路・分野の把握⇒内部説明会による進学事情のレクチャー⇒外部主催の進学説明会参加⇒志望校選定⇒（オープンキャンパス参加）⇒出願書類準備⇒志望理由書作成⇒面接・試験対策などの一連の流れを指導し、学生ごとに個別サポートしている。面談内容は、面談記録シートに記入し、進捗は毎週の教務部MTGで確認している。問題等あった場合は担当教員だけでなく、学生部も含め学校全体でフォローを行っている。

5. 生徒支援

評価

5-1	学習や生活等の相談に対する支援体制は整備されているか	5
5-2	学生の身心の管理、事故、怪我等が起きた際の体制は整っている	5
5-3	日本での生活の指導や支援、犯罪に係る防止教育は行っている	5
5-4	防災や緊急時における体制が整備されているか	5

《現状・具体的な取り組み／課題》

入学時にオリエンテーションを実施。中国・ベトナム・英語圏など、職員や在校生による通訳を入れ、新入生ハンドブック（日本語・英語語・繁体字・簡体字・ベトナム語翻訳あり）を使用し、生活における注意点などの説明を行っている。学生が生活の中で問題や手続きのやり方が分からないことに直面した時、職員が積極的に対応する。学生が安心して留学生活を始められるようにサポートを行っている。

緊急による学生の健康問題や事故などにおいて、問題が起きた際には職員が即座に学生や機関と情報共有を行い、その対応に努めた。

毎日の出席確認の際に、学生の小さな変化をとらえ、できる限り問題が小さなうちに対処できるように努めている。その他にも、年2回の学生向け長期休みの注意説明会を通じて、出席率、アルバイト、自転車交通ルール、生活マナーなどをテーマとして、しっかりと学生に指導している。さらには、担任を中心に母国語を話せる職員が通訳に入って各学生と面談を行い、出席率の低下やトラブルに巻き込まれることがないように都度指導を行っている。

また、学校のお知らせや注意喚起は学生管理システムを通じて徹底的に情報を共有している。防災については、危機管理対応マニュアルを作成し、それに基づいて、年に2度全学生を対象として避難訓練等の実施することで、日頃より緊急における体制を整備している。

6. 教育環境

評価

- | | | |
|-----|--------------------------|---|
| 6-1 | 学校の施設・設備が十分且つ安全に整備されているか | 5 |
| 6-2 | 実際に使用している教材は適切であるか | 5 |
| 6-3 | 学習効率を図るための環境整備はなされているか | 5 |

《現状・具体的な取り組み／課題》

毎日放課後に校舎の見回りをし、金曜日の夕方には職員全員で校舎内の清掃・点検を行い、施設・設備に破損、不備などがあつた際には、新品への買い替え・改修・クリーニング等必要に応じて対応している、また、備品が継続的に使用できるよう、教職員・学生へ常に使用方法 について注意喚起をおこなっている。

教材については、複数ある候補の中から、弊校の教育理念に最適な教材を、学籍の国籍によるニーズも考慮しながら選別し使用している。成績が伸び悩むクラスに関しては、より段階的に力をつけられるような教材を取り入れ、ときには補習を行うなどの対応をおこなっている。

学生には必要に応じ、PC等の機器を貸し出し、学習の用途にかぎりいつでも利用ができるようにしており、また自主 学習ができるスペースとして自習室を設置、受付前の空間も解放している。

7. 入学者の募集

評価

- | | | |
|-----|-------------------------|---|
| 7-1 | 入学者の募集活動、入学選考は適正に行っているか | 5 |
| 7-2 | 募集活動の際に学校情報は正確に伝えられているか | 5 |
| 7-3 | 授業料は適切であるか | 5 |
| 7-4 | 定員数に応じた募集活動は行っているか | 5 |

《現状・具体的な取り組み／課題》

留学希望者全員に対して、オンライン面談で入学者の選抜を行なっている。また24年度の出張で、一部現地での対面式の入学選抜の面談も行った。
2024年度募集活動は、オンラインと現地へ直接出向く両方で仲介や留学希望者と十分な時間をとって正しく学校情報を提供している。
また、授業料についても募集要項・パンフレットを提示し、毎度必ず説明を行なっている。
学生在籍人数については毎度会議においても確認し、定員数を意識し、より厳正に学生を選抜し、適切な募集活動を行った。

8. 財務	評価
8－1 中長期的に財務基盤は安定しているか	4
8－2 予算・収支計画は有効且つ妥当なものとなっているか	5
8－3 財務について、会計監査は適切に行っているか	5

《現状・具体的な取り組み／課題》

コロナ前の水準に戻り、学生数も増加したため財務面に関して問題なく運営できている。コロナ禍から継続して行ってきたコスト削減については、継続して行うことができ、全教職員意識して取り組むことができたと考えている。

毎年ボードメンバーにおいて、毎年のデータを元に各年度の予算・収支についての最終決定を行っており、その後も計画の通り遂行できるよう、厳正なる精査を行っている。

現在、新たなプロジェクトに向けた予算割り当てを行っているが、スピーディーな判断をもって、成長が期待できないものは外し、成長が期待できる分野は注力していくという選択と集中を行い、新規事業として結果を出せるように学校としてサポートを行っている。

9. 法令遵守	評価
9－1 各種法令等の遵守と、適切な運営はされているか	5
9－2 個人情報の保護の取り組みは行っているか	5
9－3 自己点検・評価を実施・改善は行っているか	5
9－4 自己点検・評価の公開は行っているか	5
9－5 関係省庁への届出、報告を遅滞なく行っているか	5

《現状・具体的な取り組み／課題》

当校は法務省告示校として、法令・設置基準を満たしており、法務省からも「適正校」としての認定を受けている。

個人情報保護について、教職員においては人事労務関連、また学生の申請書関連もGoogleFormでの申請へ徐々に移行するなどペーパーレス化を推進することでリスクの低減につとめている。

自己点検・評価については、毎年度実施・改善を行っており、ホームページ上でも情報の公開を行っている。日本語教育機関に係る各種変更の届出、行政に係る届出においても遅滞なく実施できている。

今後も教育サービス自体の更なる質向上・サービス提供環境の改善活動を継続し、健全な学校運営維持に努める所存である。

10. 地域貢献・社会貢献

評価

10-1 学校の資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献は行っているか

5

10-2 生徒に向けてボランティア活動への奨励・支援は行っているか

3

《現状・具体的な取り組み／課題》

江東区のボランティア団体と関係を持ち、江東区、ボランティア団体、弊校の定期的なミーティングを実施している。

その中で江東区民まつりや「江東区国際交流のつどい」に参加することが行えている。江東区民まつりでは模擬店を出店したり、学生ボランティアによるお試し外国語塾の実施。江東区国際交流のつどいでは「やさしい日本語」の普及活動等、日本人、在日外国人相互間の理解と交流に努めている。

学校の施設利用では、毎週末、在日中国人児童に対する継承中国語クラスに教室を貸し出し、複言語の環境で人格形成をする年少者の育成に貢献している。更に、平日には地域の生活者向けの日本語授業を行っており、日本語を必要とする生活者とりわけ日本語力が不足している就学年齢の生徒が基礎日本語を身につけられるよう努めている。地域の方々が日本語を必要とする生活者に対し日本語学校という資源を活用してもらうための取り組みは行っているが、今後は更に、地域の方々と留学生、教職員が触れ合えるような活動を企画し、相互理解を深めたい。

学生に対するボランティア活動の奨励・支援については、十分とは言えない。地震や台風などの災害にからの復興に対してボランティアを行うという非日常におけるボランティアでなく、日々の生活の中で自発的に行うことができるボランティアから始めることを考えている。学校として企画立案するだけでは、うまくいかないことも多いため、今後は地域のボランティア団体とも連携を取り、学生の成長に繋げていきたいと考えている。

《総括》

【学校目標】

1. 人生をdesignできる人材を育成する
2. 学校に関わる人々にとって最適な環境を作る
3. 東京都を代表する日本語学校になる

上記の学校目標の下、自己点検・自己評価の下位区分10項目に対して社員一同、実現に向けて真剣に取り組んできた。

1. 教育の理念・目標等
2. 学校運営
3. 教育活動
4. 学修成果
5. 生徒支援
6. 教育環境
7. 入学者の募集
8. 財務
9. 法令遵守
10. 地域貢献・社会貢献

1.～7.と9.の項目については、どの項目においても努力を重ね、達成できてきたと考える。

課題としては8.財務と10.地域貢献・社会貢献である。共に改善策を考え、25年度には実施し改善に結びつけたい。

一方で、学校の運営として財務の改善は必須の事柄であるが、それにより教職員にとって働きやすい職場を壊すことがないように今後も留意していく。

更に、地域貢献・社会貢献の分野も同様で、学習者のニーズに寄り添った結果による貢献となるよう枠組みを整備していく。

次年度以降も、学校目標・教育目標に対して更に理解を深めつづけ、各部門、各人で行動に結ぶ付け、カナン東京日本語学校としての価値を高めていきたいと考える。

その際には学習者大切にし、ニーズに寄り添った「東京都を代表する日本語学校になる」という目標に向かって、邁進していく所存である。